

もっと若葉台を

第3回

「若葉台の橋」

若葉台には、「橋」がいくつか有ります。橋とは辞書に依りますと、川や谷に架ける通路となっています。英語でも BRIDGE は「STRUCTURE OVER WATER」と記されています。

しかし、若葉台では川や WATER を単に「流れ」と解さなければ納得できません。人や車の流れの上に架けた通路が沢山有ります。原則で、歩道と車道は完全分離をされています。

「あかね橋」「いなりやま橋」「幸橋」「滝音橋」「西の沢橋」「夕映橋」「西谷橋」貴方はいくつご存じでしょう。すべてが若葉台四丁目に架かる橋の名前です。小学生の待合い場所であったり、雨天時のテニス練習場になったり、使われ方は様々。そして折々に人生の一端が垣間見える・・・



若葉台南信号の先

中でも、もっと変な橋が有りました。電話局・一品香の南に、人の流れの上に架けた、水が渡る橋。まるで人と水が逆の橋。「大貫谷戸水路橋」(大貫谷戸水路橋) 全長 306M で水道界でも貴重らしい。又、神奈川の橋百選の 18 番にも選ばれた昭和 27 年生まれの変な橋。相模湖から来て川井配水池経由で鶴ヶ峰浄水場と続く導水管です。足立ホームの先の丘から若葉台 1 丁目南端の丘をかすめて、ズーラシア方面へ流れていきます。3 丁目の笠原さんの著書「水道道たんけん」にも出てきます。